



渋谷区

面積	15.11km ²
世帯数	143,411世帯
人口	231,499人
(うち外国人)	12,291人
予算	1,223億円
職員数	2,070人

歴史・見所・名所

「渋谷」の地名の由来は、地形による説や豪族の氏による説など諸説ありますが、確たる文献はなく定かではありません。

渋谷区は、昭和7(1932)年10月1日に渋谷町、千駄ヶ谷町、代々幡町の3町が合併し、大東京35区の一環として誕生しました。その後、交通網の発達や大学立地などに伴い、戦後から高度経済成長期にかけて人口が増加し、「文教住宅都市」として市街地が形成されました。更に、昭和39(1964)年の東京オリンピックを契機として都市基盤の整備が進捗し、業務・サービス機能の集積が進み、昼間人口は飛躍的に増大し、「副都心を有するまち」としての性格が強まりました。現在も、渋谷駅周辺を中心に再開発が進んでおり、渋谷区は日々進化・発展しています。

渋谷駅前広場では、忠犬ハチ公像が渋谷の移り変わりを見守り、多くの人が行き交う世界最大規模の渋谷駅前スクランブル交差点とともに、日本を代表する世界的な有名スポットになっています。



忠犬ハチ公像

飼主の上野博士が亡くなった後も、10年間渋谷駅前で主人の帰りを待ち続けた秋田犬ハチ公の銅像です。

概要

渋谷区は23区の西南に位置し、中心部には明治神宮・代々木公園という大きな緑地があり、これらが区面積の約1割を占めています。

人口は、昭和38(1963)年の26万8千人をピークに漸減し、バブル景気後の平成9(1997)年に18万3千人まで減少したあと、都心回帰により増加傾向に転じ、コロナ禍で一時減少したものの、令和6(2024)年4月現在で23万1,499人(4月1日現在)となっています。世帯は、単独世帯が全世帯の6割を超えています。

まちの特徴として、都市の利便性から在勤・在学の昼間人口が多く、ファッションやIT関連などの産業、高質な文化・交流拠点をはじめとする都市機能が集積しています。また、良質な住宅地としての都市イメージも高く、都心居住の場及び文化創造の場として、多様な可能性を有しています。

渋谷駅周辺地域は、平成17(2005)年12月に都市再生緊急整備地域の指定を受け、さまざまな整備計画が進んでいます。平成20(2008)年6月に地下鉄副都心線が開通し、その後も渋谷スクランブルスクエアや渋谷サクラステージなど多くの商業施設が続々と開業しています。渋谷区は、クリエイティブな成熟した国際都市をめざし、産官学民の連携を図りながら、さらなる発展をめざしまちづくりを進めています。



渋谷おとなりサンデー

バリの隣人祭りをヒントに、さまざまな交流を一斉に行い、普段話すことの少ない近隣の人ともっと顔見知りになり、楽しく交流を深める日にしようという取組みです。



渋谷区くみんの広場

ふるさと渋谷フェスティバル「わが街と誇れる渋谷」の形成を目指して、毎年11月初旬の週末に代々木公園で開催している、10万人以上が訪れる渋谷区最大級のお祭りです。

渋谷区がめざすまちづくり

渋谷区は、時代を先取る情報やファッションに満ちた文化・国際交流の都市として発展してきました。一方で、急激な少子高齢化の進展、単独世帯の増加、価値観やライフスタイルの多様化などにより、人間関係の希薄化、地域の賑わいや活力の低下など新たな社会課題が生じています。そこで、平成28(2016)年10月に、20年後を展望した渋谷区基本構想を策定し、区のめざす未来像を「ちがいを ちからに 変える街。渋谷区」と決めました。

(1) 渋谷民が誇れる「成熟した国際都市」

スクランブル交差点に代表される渋谷駅周辺の賑わいや、渋谷が生み出す文化やムーブメントは、常に世界に向けて強烈なインパクトを与え続けてきました。これからも、「ダイバーシティ&インクルージョン」の考え方を大切にし、人種、国籍、信条、性のありよう、障害、年齢、出身地、経歴などにかかわらず、渋谷で暮らし、働き、学び、訪れる全ての「渋谷民」が誇りを感じる成熟した国際都市をめざします。

(2) つながり、支え合う共生のまち

渋谷に住む全ての人々が、住み慣れた地域で自分らしく暮らし続けるには、子どもから大人まであらゆる世代が支え合い、助け合う地域社会の形成が必要です。この多世代が交流する共生社会の実現に向け、人と人とのつながりや共助の心を育むとともに、このまちで子どもを産みたい、育てたいと思える安心と信頼を築いていきます。

(3) 多様な主体との連携による持続可能な区政運営

持続可能な区政運営を実現するため、地域コミュニティを構成するあらゆる関係者が連携を深め、民間企業やNPOなどと協働したまちづくりを進めます。また、地域経済のさらなる発展に向け、地元企業や商店への支援とともに、新たなビジネスを生む環境整備にも取り組みます。

更に、平成29(2017)年8月に鹿児島市と、令和3(2021)年3月に新島村と観光・文化交流協定を締結し、令和4(2022)年5月に秋田県大館市と交流促進協定を締結しており、今後も防災、観光、産業、文化などの各分野を通じて、他自治体との連携を深めていきます。

将来展望

渋谷は、さまざまな個性を認め合う寛容性の高いまちで、常に国内外から多様な人々が集い、その個性や行動が新たな文化や産業を創造し、世界に発信されるほどの影響を持つようになりました。

渋谷区は、個性を認め合う自由で寛容な地域性をまちの貴重な財産と捉え、これを未来に向けて継承し、区に関わる全ての人々とともに、さまざまなちがいを認め合い、いかなる差別を受けることなく、社会、文化、経済その他のあらゆる分野で、誰もが個性を見出すことができるまちをめざします。

その実現に向け、人々のさまざまな多様性を認め合い、人権を尊重し、誰もが等しく参加し、自分らしく安心して生きることができる社会を推進していきます。



渋谷駅前スクランブル交差点
渋谷駅は、JR・東急・京王地下鉄各線が乗り入れ、1日当たり約300万人の乗降客でにぎわう渋谷区の表玄関です。



旧朝倉家住宅
東京中心部に残る、数少ない大正期の和風住宅として貴重であり、平成16(2004)年に国の重要文化財に指定されました。一般公開しています。



渋谷区子育てネウボラ
妊娠から18歳になるまでの全ての子どもとその家族をサポートする子育て拠点施設として令和3(2021)年8月にオープンしました。



渋谷区立宮下公園
明治通りに沿って南北に延びる敷地に、商業施設やホテルと一体の複合施設「MIYASHITA PARK」として令和2(2020)年にリニューアルオープンしました。